

NPO法人自然と緑

NPO 法人自然と緑 会報 2023 年 9 月 1 日発行 第 132 号

特定非営利活動法人自然と緑

代表者 伊藤 孝美

〒540-0006 大阪市中央区法円坂1-1-35

アネックス パル法円坂(大阪市教育会館)4階

TEL: 06-6809-1700 FAX: 06-6809-2702

E-mail: sizen_mi@osb.att.ne.jp

URL http://home.att.ne.jp/iota/sizen_midori/



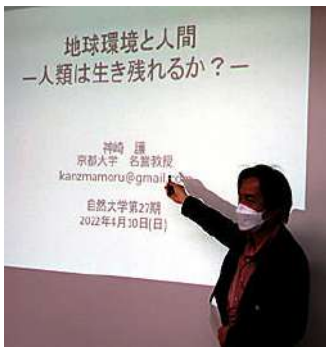
自然大学での講義を終えて

自然大学教授 神崎 護 (京都大学名誉教授)

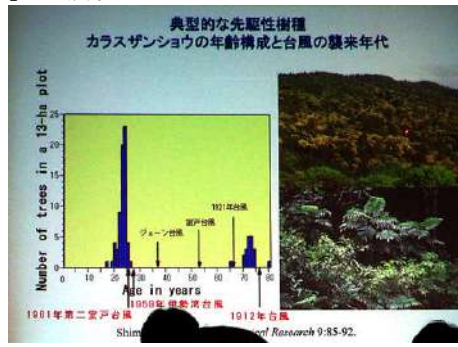


2023年4月の自然大学での講義を終えて、妻の実家の盛岡に移り住みました。春日山の実習を担当したのが、自然大学との最初のつながりでしたが、2021年から3期の講義も担当させてもらいました。市民むけの講座を担当したのは、自然大学が初めてではなく、大阪市立大学の助手の時代に、環境と森林関係の講座を担当していました。大学生向けの講義では、学生さんとの経験値の差がとても大きいので、どうしても授業が一方通行になりがちです。講義内容がほんとに伝わっているか？心配になりますし、質問をきっかけに話が広がっていくことがなかなか実現できませんでした。それに対して市民向けの講座に参加される方は、退職後の方も多く、それぞれの分野で経験を積んだ方です。環境問題や植物の知識の深い方もおられます。先日の自然大学での講義と同様、いろんな質問を気兼ねなくしてくれます。質問というより議論を挑んでくるという方も中にはおられます。これは、武者修行のような体験ですが、その後の私の講義のスキルアップに、随分と役立ちました。熱帯の話に関連して、どうして熱帯林の減少が止まらないのかという、根源的な質問も多く、私自身もその後の研究生生活で常に考え続けることになりました。先日の講義は、そんな市民大学での体験も含めた、私の研究生生活の集大成とお考え下さい。遅れてしまいましたが、聴講していただきありがとうございました。

私にとって岩手は、ほとんど初体験の地です。先日は木材組合を訪問して、いろいろお話を聞いてきました。広大な森林には、植林のすぎだけでなく広葉樹やアカマツも多く、最近バイオマス発電用のアカマツの伐採がさかんなようです。お隣の秋田県大館市の桶樽の製造業者も見学してきましたが、秋田は秋田で天然スギの伝統を持つ魅力あるところ。温泉の多い東北の山を、これから探索していこうと楽しみにしています。皆様も「自然大学」を満喫してください。



開校講座で講義する神崎教授



台風後に生立する典型的先駆種
カラスザンショウ



2002年に春日山実習
を行う神崎教授



2014年にタイ研修生
を引率して春日山に

— 132号目次 —

p 1	自然大学での講義を終えて	自然大学教授	神崎 護
p 2 ~ 3	渡辺弘之の未確認事件簿(14) 気になる雄ヒヨコの行方	自然大学学長	渡辺弘之
p 4	27期自然大学 金剛山夏緑林生態実習感想文(抜粋)		27期自然大学受講生
p 5	観音竹に花が咲いた 会報川柳(自然と緑広報担当 神崎江)	自然と緑理事	竹内一郎
p 6	さいとうさんの話のタネ(61)	自然と緑前理事長	齊藤 侑三
p 7	『さいとうさんの自然観察の種 2』が9月1日に発行	自然と緑前理事長	齊藤 侑三
p 7	経法大の竹林整備に参加して	自然と緑会員	多和小彌太
p 8	活動報告/編集雑記	自然と緑	会報編集部

ヒヨコを飼って卵を産ませる

子供のころ、縁日で買ってもらってヒヨコを育てた。ある日の朝、餌をやりに行くと小さな卵があった。父親がびっくりしていた。狭い裏庭で放し飼いをしていたのだが、卵を産んだニワトリは侵入したイヌに食べられた。近所で飼っているイヌだが、当時のこと、放し飼いであった。

タイ北部山岳地の少数民族の村で大きなブタが横たわり、それにイヌが添い寝し、ニワトリがブタの上ののっている光景を目にした。長閑な光景であった。イヌに食べられたヒヨコのことを思い出し、同行のタイの友人に「イヌはニワトリを襲わないのか」と聞いたことがある。「昔、そんなことがあったようだが、そんなイヌは全部食べた、今残っているイヌはそんな遺伝子をもっていないものだ」と説明を受け、何となく納得した。東南アジアにイヌを食べるところは多いが、ここもイヌを食べる習慣のあるところだった。



イヌ・ブタ・ニワトリ

タイ、バンコクのチャチュチャック市場で赤、緑に着色されたヒヨコを売っていた。着色していない黄色のものも混じっていたので、三色のヒヨコがいた。きれいなものだった。子供が「赤、緑、黄色、一匹ずつ買って、育てる」といいそうであった。しかし、現在では孵化したとき、すぐに雌雄の鑑定を受けているはずだ。売られているのは、殺されなかった雌か、殺される運命の雄だったのか、売っているおっちゃんに聞いておきたかった。



三色のヒヨコ

卵から孵ったヒヨコはすぐに雌雄が判定され、雄ヒヨコはすぐに殺されるという。卵を産まない雄はいらないのである。日本人のヒヨコ鑑定は100%の確率、ヒヨコの雄は殺されると聞いてはいたが、気になるのはその行先だ。どこへ行っているのだろう。スズメの代わりに焼き鳥になっているのかと思ったが、伏見稻荷大社鳥居前の名物の焼き鳥もほとんどはウズラで、スズメはもうほとんど売っていない。スズメに化けているとも思えない。どこへ行ったのだろう。



伏見稻荷大社鳥居前の焼き鳥スズメ

ヒヨコの雌雄鑑別

ヒヨコは雄雌ほぼ同じ割合で生まれてくるだろう。しかし、卵を産まない雄ヒヨコはすぐに殺されてしまう。哀れな運命だ。生まれてすぐ殺すのは可哀そうなので、生まれる前、卵自体から微量の液体を取り出し雌雄判別する方法もあるようだが、1個1個では時間がかかる。これにもヒヨコを殺すのと卵の胚を傷つけて殺すことに倫理的にはちがいはないともされる。むづかしい判断だ。しかし、私たちが現在食べている卵はすべて無精卵で、孵卵器に入れてもヒヨコになることはない。

ヒヨコの雌雄鑑別は羽毛、体色、総排泄孔のかたちなどで行い、日本では民間資格であるが初生雛鑑別師（ひよこ鑑定士）によって行われる。畜産技術協会の鑑別師養成所修了者のみが得られる資格である。日本の技術は高く、海外での仕事も多いとされる。雄ヒヨコを殺すにはイギリスなどでは苦痛を与えないようアルゴンガスが使われているとされるが、日本ではビニール袋に入れての窒息死だと聞く。やはり、ちょっとかわいそうに思う。私が気にしているといったのはその雄のヒヨコの行方である。

すでにフランスでは2021年末で雄ヒヨコの殺処分を止め、ドイツでも動物福祉の視点から「殺処分禁止法」が2022年5月に全国に適用されているという。雄が生まれても殺せない、育てないといけないということだ。雄も大きくなれば鶏肉として出荷できるが、卵を産んでくれる雌との飼育経費には大きなちがいがあある。実際、ドイツでは年間4,500万羽の雄ヒヨコが殺されていたのに、これが殺されず育てられているので、鶏卵・鶏肉が値上がりしているという。さて、どうするということだ。

日本でも殺される雄ヒヨコは年間1億羽に達するとされる。殺された後、肥料や飼料の原料とされるという。ネットで調べると飼育されている猛禽類の餌に冷凍ヒヨコが与えられているというが、殺処分され

たもののほんの一部だろう。死んだヒヨコを見ないのは幸いかも知れないが、その事実を多くの人は知らない。日本での雄と判定されたヒヨコの行方を知りたい。

どこへ行った雄ヒヨコ

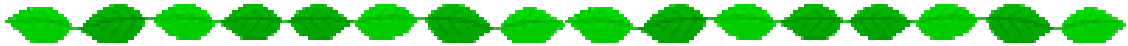
日本の鶏卵の年生産量は257万4,300トン、輸入も2万トンもあるとされる。農林水産省統計は鶏卵の数でなく重さだ。最大の生産国は中国で2,980万トンだとされる。桁違いの数だ。日本卵業協会の資料によれば日本で殺される雄のヒヨコは先にも述べたように、年間1億羽にも達するとされ、肥料や飼料の原料とされているというが、私も実態を知らない。殺し方は日本では圧死だが、スイスでは二酸化炭素ガスやシュレッダーなど、苦しみを少なくする方法がとられているという。生まれただけで殺された雄のヒヨコを見ることがないのは幸いかも知れないが、やはり事実は知る必要がある。レーザー照射などで、瞬時に卵での雌雄の鑑別ができる方法が考案されているともいう。卵での鑑定ができれば、雄卵だけを食えばいい。完成を期待している。

鳥インフルエンザ

養鶏場での高病原性鳥インフルエンザ（AH5N1）の感染拡大が止まらず、2023年5月時点でのニワトリの殺処分は全国で何と1,771万羽にも及んだ。1,771羽でなく、1,771万羽である。想像もできない数だ。ニワトリとともに卵の出荷も禁止され、卵の小売り価格が上昇している。感染した鶏肉自体は食べても人体に支障はないともされているが、ネットで調べてみると、きわめて稀にヒトにも感染し死亡することもあるとされている。WHOの報告では東南アジアを主に世界で867人が発症し457人が死亡したとされる。日本での発病例は知られていないようだ。ヒトへの感染力が強くなることが心配されている。

感染したニワトリや卵が養鶏場外へでることでのウイルスの拡散を警戒し、出荷を禁止しているのである。もったいないとの思いだが、これが唯一の方法のようだ。一つの養鶏場で160万羽もの殺処分をしている。これだけの量、とても焼却処分もできず、穴を掘って埋めるらしいが、大きな穴だろう。そのため自衛隊に出動を要請している。

鳥インフルエンザ・ウイルスは大陸からの冬の渡り鳥によって運ばれるとされる。湖や池にツルやカモが飛来するのは冬の風物詩だが、これが歓迎されない光景となっている。ヒヨコから大きく育てられやっとな卵を産めるようになったのに、養鶏場すべてのニワトリが殺されている。きびしい現実だ。



嬉しい報告です。

令和5年度 緑と水の森林ファンド公募事業の助成が決定となりました。
自然大学の赤字経営がこの助成によって、健全な運営ができます。

会員の皆様、緑の募金にご協力下さい（事務所に募金箱があります）

「緑の募金」は、森林ボランティア団体やNPO等による国内外のさまざまな森づくり活動へと活かされます。個人、自治会、あるいは職場で共同で募金する等、「緑の募金」にご協力をお願いします。

街頭や店頭の募金箱、振込用紙、インターネット、スマホアプリ、直接持参等を通じて募金することができます。募金期間中には全国の各地域で街頭募金を実施しています。

【募金期間】春の募金月間：1月～5月、秋の募金月間：9月～10月



【これなんだろう・何故だろう】

皆様ご存知の日立グループ CM の「この木なんの木」で始まる曲は、伊藤アキラ作詞・小林亜星作曲によるものです。

この「日立の樹」に用いられているのは樹は、実際にアメリカ合衆国ハワイ州のオアフ島に存在し、観光名所となっています。何という樹でしょうか？（答は6ページをご覧ください）（左写真は Wikipedia より借用）

第5回 金剛山夏緑林生態実習感想文(抜粋)2022.6.12 伊藤孝美 講師(自然と緑理事長)

○標高や位置のちがいによる植物層の変化や、地層や地質など 様々な要因で変化、変転していく自然は我々人間を魅了させますが、中央構造線あるいは金剛生駒断層と云われるもの？ ？はつきり云えるのは自然大学を受講して面白い！ということです。

【コメント】標高や位置の違いによる植物相の変化は、その場所の気温(高低差も)、降雨(雪も)、風、地質・地形などの違いによるものです。世界の森林植生帯を気温(積算温度)で区分したのが、我が自然大学の特別講師であった吉良竜夫博士が考案した「暖かさの指数(温量指数)」です。これは、植物の生育温度を日平均5℃以上とみなし、各月の平均気温から5℃を



伊藤講師の金剛山ブナ林の説明

引いて1年間合計した値です。暖かさの指数で植物帯を表すと、熱帯多雨林帯 240 以上、亜熱帯多雨林帯 180 ~ 240、照葉樹林帯(例えば春日山) 85 から 180、落葉広葉樹林帯(金剛山ブナ林)(45 ~ 55) ~ 85、常緑針葉樹林帯 15 ~ (45 ~ 55)となります。(伊藤記)

○2度目の金剛山。前回は2月でカチカチに凍った念仏坂を下山。今回あの坂を登り、良くぞ無事だと感心しました。「河内林業地」と云う事で確かに密植されている事が分かりました。檜林は本当に急斜面で、他の林業地でも思う事ですがよくぞこんな急斜面に植林出来たなあ〜と、その労働と身体能力にビックリします。「ブナの森」は東北の山に親しんだ私には同じ木？の葉の小ささ。肌感も色が濃い？ 雪や日照などの気象条件で葉を小さくしたと聞いて妙に納得しました。南北に長い列島に生まれて色々な樹木に触れられるのは楽しいことです。

【コメント】ブナの葉が日本海側や東北地方で大きく太平洋側で小さいのは、日本海側や東北地方では寒さのため芽の開くのが遅く、秋には寒くなり落葉するので、葉が光合成をする期間(生育期間)が太平洋側のブナより短いため、光合成量を同じにするため葉が大きくなったものと考えられます。人間は寒さに対しては暖房したり、暖かい服装を着ますが、植物は動くことが出来ないため体制(形)を変えて環境に適応しているのですね。(伊藤記)

○屋外の講義は今回で3回目、自然観察会は3回参加したので少しずつですが、樹々の樹種名をあてられるようになってきました。今回のテーマは夏緑林であるブナ林の生態。照葉樹林と夏緑林の違いは生息エリアの暖かさ指数(温量指数)が異なる。夏緑林は45 ~ 85の冷温帯、照葉樹林は85 ~ 185の暖温帯に生息する。金剛山の頂上付近は81.3で冷温帯に属するので夏緑樹であるブナが生息している。だが山頂付近を歩いてみるとやたらとスギ・ヒノキの林が目につく。これはスギ・ヒノキの生息域が広いからなのか。ブナ林は山頂付近でしか見られないのにスギ・ヒノキは麓から山頂まで生息している。また、山頂付近のブナ林の中にスギが点在している。白神山地のブナ林はブナ一色と聞く、この違いはどこから来るのか。我々の目にはブナだけの方が美しく感じられる。だからこんな疑問が湧いた。

【回答になるかどうか】金剛山のブナ林は標高1000m以上のところで見られます。しかし、山頂付近の葛木神社や転法輪寺の境内は古くから社寺林としてスギの植栽が行われて、数百年の樹齢のものが多くあります。境内は神聖な場所として立入禁止となっています。境内以外では山頂西側はなだらかな山容で、かなり古くには茅場として草原状になっていたため6300年前に降ったアカホヤ火山灰が「黒ボク土」に醸成され、その後雑木林になっていたところにスギが植栽されたものと思われます。山頂東側は金剛断層による急斜面となっていて、崩れやすく、土壌も浅いためヒノキが多く植栽されています。60 ~ 80年の立派な林となっています。しかし大阪側(大阪府民の森千早園地)では昭和前期まで薪や炭焼き用に皆伐した後に発生した雑木林(二次林)で、ブナはごく僅かしか見られません。やはり300年余の歴史を持つ河内林業の本場ですから山麓から山頂付近までスギ・ヒノキの造林地となっているのだと考えています。(伊藤記)

千早園地で全員集合→



観音竹（カンノンチク）に花が咲いた

自然と緑理事 竹内一郎



我が家の観音竹に花が咲きました。28年前、叔父に貰った「鉢植えの観音竹」です。日照時間は多くないが、風通しの良い屋外に置き、成長に伴い鉢は大きいのに植替えました。現在は直立した幹の高さは1.5m、太さは2cmになり、葉面は扇形に頂上付近で四方に広がっています。花を最初見たときは、小さく淡いサーモンピンク色で「これ何？虫が卵を産み付けたのかな？」と思いましたが、日が経つと大きくなり色も濃くなり花と判りました。「観音竹花」で検索すると、「30年、40年に一度しか咲かない。一生に一度しか見られない。」とありました。6月～7月に咲くそうです。我が家のも6月下旬からでした。観音竹は中国南東部、東南アジアで主に生息するヤシ科の植物です。観音竹は別名「リュウキュウシロチク」とも言い、沖縄の首里観音堂に数百年前から生えていたことから、名は「観音竹」が主になったそうです。名に竹が付いているが、竹（イネ科）は何十年に一度だけ咲き、その後数か月で枯れますが、観音竹はヤシ科で枯れることは無いです。全国で観葉植物として知られるようになったのは、昭和40年代に起きた「観音竹ブーム」以降は多くの人々に深く親しまれているようです。先日も新聞に「約40年育てて初めて観音竹の花を見た。」というご夫婦の記事が掲載されていました。

観音竹のよく知られた花言葉は二つあります。一つは「日々の平安」で、幅広の葉が扇のように広がり、いつも青々と茂り、観音さまのように災難から守ってくれる願いを込めています。もう一つの「スマートな淑女」は、竹の名の通り幹や葉がスマートな姿で、英名の「Lady palm（淑女の手のひら）」からも品位のある振る舞いと聡明な優しい女性をイメージしていると思います。又、観音竹は室内の空気をきれいにする観葉植物と言われ、風水では悪い「気」を浄化するので、玄関、リビング、オフィス、店頭に置くと運気がアップすると言われていています。観音竹は元気に育ちやすい植物です。試されては如何でしょうか。 以上



会報川柳

明けぬ夜はなかつた今朝も陽が昇る

神崎江

私にもあなたにもある物語
日常生活する災害。各地の被災状況に心が痛みます。私たちが安全で豊かな生活を営むために、人と自然との関係を再構築していく、健全な生態系が有する防災・減災機能を積極的に活用し災害リスクを低減させる「eco-DRR」という考え方が注目されています。どんなに苦しい日であっても明るい未来を信じ、できることをやっていききたいですね。

短冊に素直に書けぬ願い事
自然と緑にも様々な世代、経歴をお持ちの方がおられます。人生という物語は優劣なく尊いものです。

百薬の長は毒にもなる媚薬
今年の七夕、みなさんの彦星さん、織姫さんには会えなかったか。子供の頃、短冊に願いを書いてからもうどれだけの年月が経つでしょう。大人になるほど、ほんのことが書けない、アマノジャクは私だけでしょうか？

上半期終えて手帳の字は乱れ
今年も猛暑。ビール最高！しかし、アルコール飲料は水分補給にはなりません。適度な飲酒はご褒美。呑みすぎにはくれぐれもご注意を。（自分に言い聞かす）

早くも半年が過ぎました。新調した手帳は、最初は丁寧に書くものの、だんだん扱いが雑になります。今年の後半も大切に過ごしていきたいですね。

※（神崎江（こう）は自然と緑事務局総務担当、同広報担当 神崎トモ子さんの雅号です。）

さいとうさんの“話のタネ” (61) コウヤボウキの変種?

NPO 法人自然と緑 前理事長 齊藤 侑三

2022年10月30日、自然と緑の自然観察会で奈良県王寺町の明神山に行った。ここは昔大和と河内を結ぶ「道」があった。大和川の川辺に道を作ると洪水の度に修繕をしなければならないし、地滑りを繰り返してきた亀の瀬があるので大和川南の尾筋に歩道を付けた。明神山は標高 273.6 m、大阪側から歩いて行くと眺望の良い山頂付近で昼飯時になる。奈良県高市郡明日香村から荷物の受け取りに来るとやはり山頂付近で昼飯時になる。そこで荷物の受け渡しをしてお互いに引き返す。そこで「送迎」という地名にした。丁度昼飯時になるので「ひるめ」と言うことにした。「そうげい」と呼ぶ者には荷物を渡せない。昔は木片など文字を書き証印を押して二つに割ったものを割り符(わりふ)といった。当事者が別々に所有し、荷物の受け渡しの時には二つを合わせて証拠とした。無闇矢鱈に割り符を見せる訳にはいかない。まず、話す言葉で対象者をしぼる。「送迎」の文字を「そうげい」と読む者は対象外だ。「ひるめしにするぞ」といえば、注意深く観察して荷物の受け渡しの相手を確認する。そこで「送迎=ひるめ」と呼ぶようになった。なるほど、古人の知恵が詰まっている。



明神山の誓いのテラス

山頂には若者向けに「誓いのテラス」が大阪湾に向けて設置し、恋人の聖地になっている。



コウヤボウキ

この山頂の手前 100 m位のところで変わったコウヤボウキを見つけた。普通のコウヤボウキは当年枝の先端に1個の頭花をつけるが、1本の枝の葉ごとに花が付いているので、「ナガバノコウヤボウキ」だと思った。ナガバノコウヤボウキを確認すると、葉が4枚出ている2年枝に花が着いている。今回の観察では1年枝の葉が1枚のところの花が付いているので違う。近くにあるコウヤボウキの花托は細いが、この花托は少し膨らんでいる。新品種か、ただの変種か、わからない。



枝に連なる花

コウヤボウキの仲間には「コウヤボウキ」と「ナガバノコウヤボウキ」がある、1988年に「シマコウヤボウキ」が環境省の絶滅危惧 I B 類 (EN) に出されている。この写真を見ると、これとも違う。

2022年1月に「かしわら森の会」の活動地に行ったとき濃い桃色が数株あるのを見た、今までに見たこ



冠毛がピンク色のコウヤボウキ

ことが無い美しい色をしていた。「綿毛が終わり頃にはピンクになるのでは」と質問があった。コウヤボウキには冠毛が「ピンク色がかっているもの」が稀にあるとネットにでていた。

コウヤボウキとナガバノコウヤボウキの違いは、「花が1年枝に付くか、2年枝に付くか」の違いで、ナガバノコウヤボウキは淡褐色の長さ 10mm になる冠毛がある。コウヤボウキの花は9~10月頃に、1年枝の先に1つ、直径 1cm ほどの白い花を咲かせる。

明神山の花も柏原「いぶらの森」の花も、花托が太い変種コウヤボウキか今までに見たことのない珍しいコウヤボウキだった。



【3 ページの答】

この木なんの木の名前は、熱帯アメリカ原産のアメリカネムノキ (学名: *Albizia saman*、シノニム *Samanea saman*) (マメ科) です。

別名モンキーポッド、レインツリーとも呼ばれます。

葉は2回羽状複葉で、日の出とともに開き、午後になると閉じます(就眠運動)。降雨前にも葉が閉じるため、レインツリー (rain tree) という呼称の由来となっています。



アメリカネムノキ(ラオスルアンプラバン) 花

日本のネムノキ

『さいとうさんの自然観察の種 2』が9月1日に発行されました

8年前に「さいとうさんの自然観察の種 1」に続き、このたび「さいとうさんの自然観察の種 2」が発行となり、9月から発送できます。

内容は第1章：面白い“話の種”。第2章：“自然と緑”の“話の種”。第3章：歴史と文化。第4章：地図とその周辺。第5章：クラフト関係。第6章：子ども関係となっています。

特にロシアのウクライナ侵攻から平和問題について考える。子ども向きの企画の立て方。歴史では、明智光秀は謀反をしていない、徳川家康は堺で死んだなど「独特の面白い説」が掲載してある。自然教室や自然観察、案内のときの「話の種」・ヒントになります。

書店には置いてないので FAX か Eメール、手紙等で下記出版社に申し込んで下さい。

申込先：〒550 - 0005 大阪市西区西本町 1-11-1 (株)文教出版

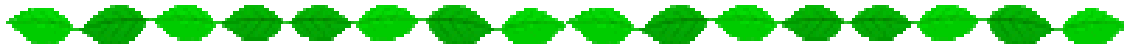
FAX (06) 6535 - 4684 Eメール r.takagi@f2.dion.ne.jp

住所、氏名、部数を記入。



鹿児島県 蒲生八幡神社の日本一の大樟

「NPO 法人自然と緑の紹介」と記入頂ければ著者割引があります。



大阪経済法科大学の竹林整備に参加して

NPO法人自然と緑会員 多和小彌太

地元の方々と齊藤前理事長が手掛けておられたのを自然と緑も加えて整備の馬力アップを計ろうと言うことで「参加しませんか」と声を掛けて頂いたのが始まりです。

雑木林に真竹や破竹が蔓延っていました。沢の上の方にはユリノキの大木があり、ニワトコ、ヤブ椿等も細々とありました。

果たしてこの竹の勢いを人の手で止めることができるのだろうか、「これはすごい挑戦だな」と、しかし一本一本教えて貰った段取り通り片付けて行きますと、一人では中々捗りませんが、数人でやると鬱蒼とした竹が伐られて段々に積まれ、斜面の下から見上げると、その分、空間が綺麗に見渡せて、今日もやったな〜と汗を拭いながら眺めては帰途につくのでした。

竹を伐った部分は暫くは空間で下草が生えて来るところもありますが、竹の勢いは治まらず次々に筍が芽吹き、放って置くといつの間にか元の竹林に戻ってしまいます。

道作りをしたり、沢に橋をかけたり、広場を設けたりしますが、其れを維持するのも容易ではありません。自然に挑戦しても勝目はないのではないかと思うのです。なのに毎月この竹林に出掛けるのは何故なのでしょう。矢張り美味しい空気に誘われるからなのでしょうね。(多和)



作業を終えて

※付記 大阪経済法科大学山林の整備活動について (自然と緑広報)

八尾市の企業やボランティア団体、労組、市民、大学があつまり「環境アメイテッドやお」を結成し、環境を護る活動を行っていました。その活動の中に自然活動部会があり、2007年から森林整備に入りました。当初の参加者が高齢化して野外活動が困難になり、2013年から大阪経済法科大学のクラブ“里山まもり隊”が里山整備の経費を申請して、NPO法人自然と緑に作業を委託することで野外活動が継続できました。

NPO法人自然と緑は森林山村多面的機能発揮対策交付金をいただくことで引き受けました。しかし交付金は同じ活動地では3年以上出ない事になっており交付金は廃止されました。その後は竹やツルのクラフト材料が入手出来るので、今日まで活動を継続しています。

【御礼】いつもありがとうございます。（順不同、敬称略）

<切手、ハガキ、現金などのご寄付、他>

06 / 22 只木良也 ブナの森から（原田健一）

06 / 26 前迫ゆり 愛しの生態系（前迫他著）

07 / 24 M.M. 切手 07 / 30 渡辺弘之 琉球の祭祀植物の研究（新里孝和著）



自然と緑の活動報告 2023年6月～2023年8月

- ◇ 06/20 (火) 大阪経済法科大学の里山整備活動 07 人
- ◇ 06/20 (火) 三役会議 05 人
- ◇ 06/21 (水) クラフト研究会 (苔テラニウム) 03 人
- ◇ 06/21 (水) 「B棟解体工事」説明会 01 人+36 人
- ◇ 06/24 (土) 武庫川探訪自然観察会「第5回」 20 人
- ◇ 06/25 (日) 馬ヶ瀬山ふれあいの森 定例活動・炭焼き活動 14 人
- ◇ 06/30 (金) 広報 HPグループ打合せ 03 人
- ◇ 07/03 (土) 「大阪市教育会館東館」内覧会 01 人+20 人
- ◇ 07/09 (日) ステップアップ講座「六甲山」 21 人
- ◇ 07/14 (金) 広報 HP打合せ 04 人
- ◇ 07/15 (土) 全林野関連労組近畿中国地方本部第19回総会 01 人
- ◇ 07/17 (月・祝) 自然観察会「亀ノ瀬～竜田大社」(右写真) 34 人
- ◇ 07/18 (火) 大阪経済法科大学の里山整備活動 08 人
- ◇ 07/23 (日) 馬ヶ瀬山ふれあいの森 定例活動・炭焼き活動 24 人
- ◇ 07/24 (月) 広報 HP打合せ 02 人
- ◇ 07/28 (金) 森林の市実行委員会 03 人
- ◇ 07/30 (日) 第28期自然大学 「土の生態学」 50 人
- ◇ 08/01 (火) 日本フィランソロフィー 申請書等打合せ 04 人
- ◇ 08/06 (日) 第28期自然大学 「水域生態学」 41 人
- ◇ 08/18 (金) 広報 HP打合せ 04 人

NPO法人
自然と緑
ダウンロード方法



上記QRコードに
アクセスして下さい

上記ホームページは、
現在修理中です
いま暫くお待ち下さい。



亀ノ瀬の地質と地形構造

★編集雑誌
☆ドイツの哲学者、マルクス・ガブリエル教授（ボン大学）が、人工知能（AI）などのデジタルテクノロジーについて毎日新聞の取材に応じた内容です。
☆デジタル化の底流にある数学的思考には限界があるとして、AIが人間の知能を越える可能性には否定的な見方を示した。
☆むしろ、本当に懸念すべきなのは「テクノロジーが人間らしくなることではなく、テクノロジーを使うことで、人間が人間らしさを失うことだ」と指摘した。
☆AIは「生物学的物質を持たないため」に、現時点では人間と同じレベルには達しないと指摘した。その上で、「それよりも恐ろしいことは、対話型AIチャットGPTを使ったり、インターネットに接続したりする時間が増えることだ」と語り、限られた世の中の捉え方しかできないデジタルの枠組みに私たち自身が絡め取られてしまう危うさを訴えた。
☆私たち自然と緑が思考する自然環境、森林環境を理解することは、まさにデジタルではなく、アナログ（簡単に言えば森林植物を目で見て、手で触り、耳で聞き、鼻で臭いを嗅ぎ、口で味を診るなど五感を使うこと）で、曖昧な部分もあるかも知れませんが、理解する必要性を感じます。
(ワンワン)

